

第一章 調査経過

2009 年度、当研究会は戦国期の山城遺構、山中城（滋賀県大津市山中町）の調査を行った（『私と古墳と城と』2009 年）。この城は、2005－2008 年度にかけて調査した一乗寺山城、一乗寺延暦寺山城（報告書は『第 52 とれんち』、2008 年）と地理的、時代的な関連性が深い。また山中城は京都と滋賀を繋ぐ山中越を押さえる位置に存在している。

踏査は8月8日から11月15日までの計7回にわたって実施されており、略測を行い、縄張り図の作成を通じて、構造・役割といった城の全体像の解明を試みた。遺物は採集されていない。また、文献調査も行った。加筆・修正の上で、本書第三部に収録した。

なお、山中城の調査は、既に滋賀県教育委員会が実施しており、『滋賀県中世城郭分布調査報告9』（1992年）にまとめられているが、測量図の方角が誤って記載されているなどの問題点がある。

2010－2012 年度にかけて、当研究会は中世の山城遺構、阿弥陀ヶ峰城（京都府京都市今熊野阿弥陀ヶ峰町）の調査を行った（昨年度以前は、『秀吉の眠る山』2010年、『町衆たちの世界』2011年として発行した）。

この城は、山中越という道を意識して築城されたと考えられる山中城などの城と同じく、地理的に見ても歴史的に見ても渋谷越という「道」を明らかに意識して築城された城（「道の城」）である。

具体的な作業としては13回にわたって略測を行い、縄張り図の作成を通じて、構造・役割といった城の全体像の解明を試みた。また、文献調査も行った。本書第二部に収録した。

阿弥陀ヶ峰城に関して山下正男氏が「京都市内およびその近辺の中世城郭——復元図と関連資料——」『京都大学人文科学研究所調査報告』第35号、1986年において簡単に触れていることを付記しておく。

なお、並行して本年は来年度以降のための予備調査も行った。

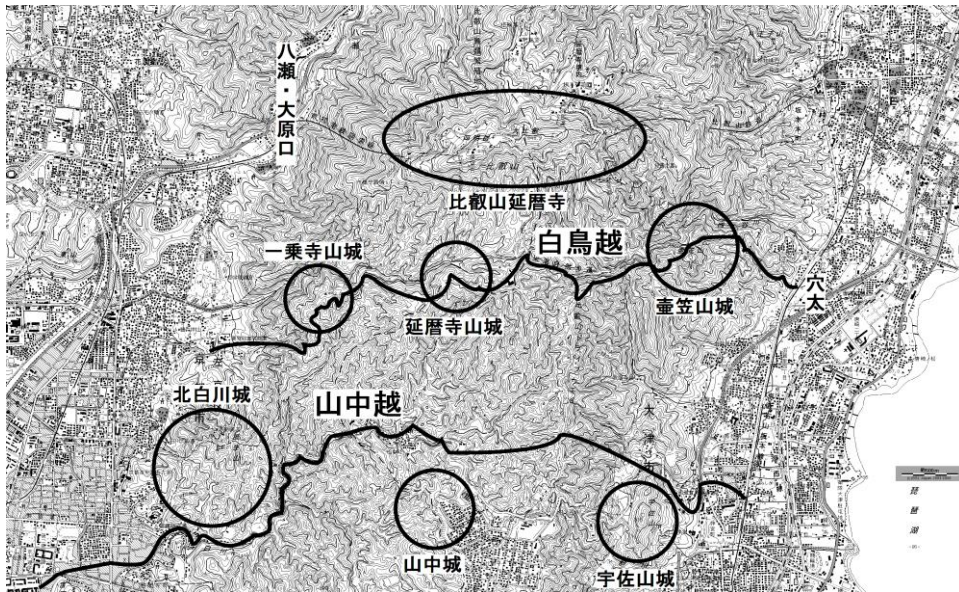


図1. 山中城と周辺の城



図2. 阿弥陀ヶ峰城周辺地図